



本草



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written on aged, yellowed paper and is oriented vertically on the right page of an open book. The script is dense and flowing, characteristic of early modern cursive handwriting.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written on aged, yellowed paper and is oriented vertically on the left page of an open book. The script is dense and flowing, characteristic of early modern cursive handwriting.

草書題詞，內容為對某人的稱頌或謝詞，字跡流暢，筆力勁健。

曩日留滯華堂連蒙在供泛愛之
厚何至于此感銘不諼十九日
于鏡驛廿日關原廿一日歸衡
也書劍無恙請勿勞遠念矣

矣——
本美——
今更善夕歎

新之秋明——
乃自林之乳
入

此里を幸く居るは乃夕を成 青

換之

辛崎を志す終る事あるは宛 入

幸あけし事なれはさうり事入得此

句以示士朗朗沈吟日夜字未佳輒就

筆改志すはる事

右旅中數句以致左右無吝斧正幸甚

時下栗冽自愛維祈

十月五日

青雲居長兄

岱青頓首

秋終秋乃終をるる麻の終 岱青

柿のくもあつる月 于當

麻の寒はるはる事 蘇道

くしゆのちの辰乃川に重
樂二

春と秋とをばばおとよとま
蘭蕙

桂せはらりるや垣みも
文山

香掃子もあも馬智子けあ
山呼

みよと久しおよは代り松
帰一

三浪乃中へ入りて志のまよ
佳綾

併はききと寺に隣りぬ
蓬去

あのをさるゑぬ振袖の女も
樂二

あさけのつらうあはれかみ
蘭蕙

うさぎもあはれあはれと
文山

舟園をすまふ葉乃月
山呼

志のあはれあはれあはれ
蓬去

堰もあはれあはれあはれ
帰一

旅人よあはれあはれあはれ
山呼

妹もあはれあはれあはれ
佳綾

あはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれ

早田の秋をいふてゆりきり
それりしよか人れり

くれきり

唐草のしりぞきしよまは早田のれ
士朗
丁金乃早田の唐草のれ
松兄
刺さるれりゆりきりすよれ
少汝
藤人の事れきり唐草のれ
竹有
早方よ早秋をいふてゆりきり
羅誠

舊都石鹿萩

おろし人れきり唐草のれ
大阜
おろし人れきり唐草のれ
帰一
萩の花れきり唐草のれ
樂二

月光山夜泊

つらきもれきり唐草のれ
岳輅
月をいつしよまは早田のれ
駿六
みし唐草のれ唐草のれ
方明

尾をり笑あそむるり罽栗能多 卧央

前後四季のふり能吟きれとも

さる集りかゝるもあや 信ふ

とほり能成りて入るや言ふも終 蕉雨

世のあはれは松き一月のり 于嘗

人牛ももたもぬもき能垣種なる 文出

ちり能成りあそむ村中も集りも季 許風

よはるる千々もきりり能成り 桐吾

湖幸なり物々能成り能成り 花陶

杉のけし目も捨垣もあそむる 嵐翠

厂のぬり能成り入る日暮りも季 魚村

厂幸能り能成り能成りあそむる 山呼

磯松と月もあそむるも十三枚 亀梁

能成り能成り能成り一月のり 宇洋

秋のやそとくも花すま 武昌
中へりあふ山家も月能垣秘哉 五来

秋の香麗歌ももも葉は程 重厚

山へけを朝のま 秋の葉 星文

村雨のあふふ山 薄の葉 蘭蕙

大溪乃おふやとて色もむら 白圖

さくたさくや志契乃山我や流しは六
本等四時此本を依方色くし

のほろちや五十條所峠千里ある

山中おとぬ人歌すくふ新巻云

前う湖より乃勝居本依成る如海

そし海をいま如ま此つらう新巻る

ふりえとあふるま如ま此は

此堂寺孫乃世を依中し何人若

沙汰——うりやせしむるふより諸河
たふさきまじやうしあはく入し斗あを
秋さのけちあれあはしなんよら秋と
けしんまのやうの杖を戴てあ屋
乃ややうに秋もせんき秋のほこ
葉を變——考越之由——なると
——してあらあを侍ら修よせ動寺
乃打もせん——とあ後さういあを

秋

月夜——響秋あり秋乃秋
あしりすさみし縁をきんか——
をうさういさう禁人よむいりき
ほとなく秋の星さうみし秋を
乃——あやあさうし——
しんか——

秋あはれあはれ——
南古乃秋

右 騏道

青子あやせし〜遠き

〜二子うやせ
か〜

ほ〜乃余人紀鳳

涼〜入杉乃乳 太深

青子うやせし〜
有人千那

あ〜

高〜

山〜井乃咲〜方明

月〜梅乃花〜士朗

秘〜武青

位〜羅城

〜騏道

〜宇洋

君より花を侍りし
岳輅

若き時似てききはうほし
天老

結ゆ彦乃霜なるぬ日ふれ
于當

さしほし二つらあまふ
許風

時うらふしきやをうらわさ
少汝

廻板手壇ふりさほ月影
松兄

白髪乃髪をうらふさ
竹有

花すくは穂もあまふり
亀梁

さしほし二つらあまふ
武昌

下畧

さしほし二つらあまふ
祐昌

出れきりあまはるのまは
故常

我やうらふしきやをうら
佳綾

拙もみれはるさ月影
蓬泉

題萬集後

尾陽岱青鳴于滑誓尚矣去秋遊堅
田有咏雁勺併其奚囊之作寄之湖
南無幾忽傳訃音湖南諸子相繼成
集需跋于余因賦一絕聊述唱和之
意云

秋波打浦荻花寒孤客高吟旅
况寬宿雁忽呼征雁侶聲々相

續下雲端

淡海外史關祐

享和元季辛酉夏六月

